

## 平成29年度財務状況

学校法人は、昭和46年4月1日付文部省令第18号「学校法人会計基準」に則して会計処理を行い、決算時には会計処理結果を表す財務計算に関する書類「計算書類」を作成しなければなりません。更に、大学法人は、平成27年度決算より「学校法人会計基準の一部を改正する省令」が適用され一般企業の決算書に相当する、資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表の3表を作成します。

学校法人行吉学園の平成29年度計算書類（決算書）は、監事の監査を経て、平成30年5月25日の理事会で承認され、続く評議員会へ報告され了承されました。また、独立監査人である監査法人から、この計算書類は適正であるとの監査報告を受けています。

### 【平成29年度決算概要について】

1. 平成29年度の事業活動収支計算書にある教育活動収入は、学生生徒等納付金収入は増加、経常費補助金収入は前年度並、雑収入にある退職金財団交付金収入も増加し、前年比「+329百万円」となりました。主な要因は、授業料改定の2年目に当たり、在学生数が前年度とほぼ同数であることが挙げられます。教育活動支出は、人件費が増加、教育研究経費・管理経費が減少したことにより、前年比「△87百万円」となりました。主な要因は、看護学部の教員編成先行により人件費負担が増加したものの、前年度に比べ大規模修繕が発生しなかったことによる教育研究経費の減少、広報戦略見直しによる管理経費の減少が挙げられます。
2. 教育活動外収支は、マイナス金利政策の継続で資金運用の金利収入が減少したものの、本学は無借金であり、利息支払いも無く収支の黒字を確保しています。特別収支は、施設・設備関係補助金の獲得がなく、故障・汚損・破損により機器備品・固定資産図書を除却処分を行っているため若干の赤字収支となりました。
3. 以上により、基本金組入前当年度収支差額は支出超過となりましたが、前年比「411百万円」と大幅に改善しています。未だ赤字基調ではありますが、好調な看護学部の学年進行、授業料改定の効果により解消されることが見込まれます。
4. 一般企業のキャッシュ・フロー計算書に当たる活動区分資金収支計算書では、教育活動資金収支差額で黒字を確保しています。翌年度へ繰越す支払資金残高も、前年度からの繰越額を「1,401百万円」増加して次年度へ引き渡すこととなっており、キャッシュ・フローは安定していると言えます。

### 【掲載する計算書類等】

- ・資金収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）
- ・活動区分資金収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）
- ・事業活動収支計算書（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）
- ・貸借対照表（平成30年3月31日）
- ・財産目録（平成30年3月31日）
- ・監査報告書（監事・独立監査人）
- ・経年推移及び財務比率